

今月のテーマ



お酒と薬の関係



日本薬局方という日本で使われる薬をまとめた本の中に、「ブドウ酒」があります。ブドウ酒は食欲不振、下痢(赤ブドウ酒にはタンニンという下痢止めの成分があるため)、不眠症に使う薬です。そう、お酒も薬の一種です。今では、ブドウ酒に変わる薬があるので、まず処方されることはありません。

…… ??? お酒と薬を一緒に飲むとどうなる ??? ……

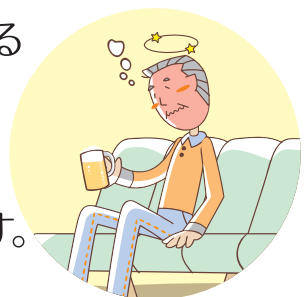
① 肝臓がオーバーヒート

お酒も薬も肝臓で分解されます。両方を一緒に飲むことで、肝臓に負担がかかります。



② 似たような作用で、薬の副作用が強くなる

- お酒を飲むと眠くなったり、ボーッとしたり、血管が広がってさらに血圧が下がることがあります。
- 似たような働き薬と一緒に飲むと副作用も強く出ることもあります。



③ 薬物を分解する働きに影響を与える

- 薬とアルコールを分解する物質が同じ場合があります。
- お酒も薬も分解が進みにくくなり、副作用が出やすく悪酔いすることもあります。

④ アルコールの吸収を増加

薬の中には、アルコールの吸収を増加させるものがあり、急性アルコール中毒のような症状が出ることもあります。



⑤ 患部を痛める危険性

- お酒をのむと、アルコールが胃や腸を傷つけてしまいます。
- 傷口の治りも悪くします。
舌がん、咽頭がん、食道がんなど、一部のがんも飲酒でリスクが高まると言われています。

??? アルコールはどのくらいで体外にでる ???

厚生労働省「健康日本21」によれば、日本人1日の適量はアルコールとして約20gです。具体的には下図の通りです。60g以上になると臓器障害やアルコール依存症など、健康に被害を及ぼす可能性があります。

主な酒類の換算の目安

お酒の種類	ビール (中瓶1本500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(35度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
アルコール度数	5%	15%	43%	35%	12%
純アルコール量	20g	22g	20g	50g	12g

厚生労働省 健康日本21より

1 アルコールの分解にかかる時間は、個人差がある

- 男性と女性、アルコール分解酵素に個人差があり、分解にかかる時間が変わります。
- 未成年者はアルコールの分解に時間がかかります。(肝機能が未成熟)
- 高齢者はアルコールの分解に時間がかかります。(肝機能が低下)

2 アルコールの分解にかかる時間は、飲んだ量にほぼ比例

- お酒を3倍飲めば、アルコールが抜ける時間はほぼ3倍かかります。

3 アルコールの分解にかかる時間は、食事や睡眠などにより変わる

- 食後のほうが、空腹時よりもアルコールの分解が早くなります。
- 睡眠中のアルコール分解速度は、起きている時よりも遅いので、翌日の午前中も飲酒状態の可能性がります。

まとめ

「お酒を飲んで、何時間後に薬を飲んでもいいか？」には、量、個人差などの条件の違いがあり、答えはありません。

お酒を飲んで一晩寝ても、みんなアルコールが抜けているわけではないのです。風邪には卵酒という方もいるでしょうが、服薬治療中の飲酒はどうぞ控えめに。

「お酒は百薬の長、過ぎれば毒」

お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局 山科店

***** みやこ薬局 *****

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店・大宮店

<http://www.miyako-ph.co.jp>